

基礎講座 9 まとめ（取引から決算書作成まで作ってみよう）

今まで学習した流れ（仕訳帳の作成 総勘定元帳の作成 試算表の作成 貸借対照表、損益計算書の作成）を例題に基づいて復習します。（単位は小額にしています。）

例題

以下のえーかわ商店の取引に基づいて、貸借対照表・損益計算書を作成しなさい。
（日付は入っていませんが、上から順番に発生したものとします。）

資本金 300 円を元に営業を開始した。

運転資金として銀行から 200 円借入した。

商品 1 個を 400 円購入（仕入）し代金を現金で支払った。

上記 商品を 600 円で販売し、代金は現金で受け取った。

商品 1 個 700 円購入（仕入）し代金は現金で支払った。

上記 商品 1000 円で販売し、代金は現金で受け取った。

社員に一年分の給料として 300 円支払った。

という取引があったとします。実際は 1 年でこんなに少ない取引、並びに給料を 1 年分まとめて支払うことはないのですが、商品を仕入れる、商品を売る、そして社員の給料など簿記で必要な学習項目の内容になっています。さて決算書を作るにはどうすればよいのか？

【STEP 1 仕訳】（基礎講座 3 での学習項目）

最初のステップとして仕訳を行います。実際に仕訳を行ってみましょう。解答できるところだけでもいいので、一度挑戦して下さい。仕訳の仕方は現金を基準に考えるのでしたね。（現金が増加すれば借方へ、減少すれば貸方へ）

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額

それぞれ仕訳してみると以下ようになります。どうです？きちんと正解しましたか？

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
現金	300	資本金	300
現金	200	借入金	200
仕入	400	現金	400
現金	600	売上	600
仕入	700	現金	700
現金	1000	売上	1000
給料	300	現金	300

すこし難しいと感じたでしょうか？初めて問題を解くので戸惑ったかもしれません。現金が増加すれば借方へ、減少すれば貸方へ記入するのは、わかっている、相手の勘定科目が解らないので解答できなかった方もいるのではないのでしょうか？ここでは、解答を見て、解らなかった勘定科目を確認して下さい。

【STEP 2 総勘定元帳の作成】（基礎講座 4 での学習項目）

仕訳が終わると次は総勘定元帳の作成です。各科目で総勘定元帳を作成しましょう。総勘定元帳では勘定科目ごとに元帳があると考えるのでしたね。ここでは、現金、仕入、資本金、借入金、給料、売上の総勘定元帳があると考えて、それぞれを完成させます。作成の時には、仕訳したものを元に、現金を基準に考えて現金の増加は借方へ、その後相手科目の総勘定元帳を埋めます。また現金が減少すれば、貸方へ、その後相手科目の総勘定元帳を埋めます。

現金	資本金
仕入	借入金
	給料
	売上